

平成 30 年度 春木カトリック幼稚園 自己評価項目

1、園の教育の目標

春木カトリック幼稚園は、生活を通して「生きている」喜びと共に、いのちの尊さを体験させ、イエス・キリストの福音に基づいた心と理性の教育に努めます。また、子どもたちがあらゆる生命を尊び、神様・家族と周囲の人々を大切にして社会に貢献できる子どもたちを育てるように努力いたします。

2、評価項目の取り組み状況

評価項目	取組内容	取り組みの状況
運営	幼保連携型認定こども園に移行するため、施設設備のハード面と職員の確保と資質向上のソフト面の準備を進める。	安全だけでなく、快適に園生活を送ることができるよう、1歳児と2歳児の保育室や廊下などを乳児用に改修工事を行った。また保育園・認定こども園での経験豊富な職員を集めた。乳児を受け入れる施設として環境整備や職員の心構え・保育内容等について経験者から指導を受け、全職員で園内研修を重ねた。 また、園の運営に力を入れるため、園長・主任の体制から、園長・副園長・主幹2名という体制を整える準備を進めた。
教育課程・指導	全職員で園内研修の形式で新しい認定こども園教育要領の学びを深める。	一年を通して園長の指導のもと、教育要領を読み上げ文献を参考にしながら、重要な点に関する考察を分かち合い学びを深めた。
地域交流	敬老の日に合わせて近隣施設の訪問を企画する。	認定こども園移行の改修工事と共に記録的な台風21号の修理に追われ、実現できなかった。来年度の課題にしたい。
子育て支援	幼保連携型認定こども園への移行を踏まえ、また既存のニーズに応じて、無認可として2歳児保育を行う。	2歳児教室は、すでに低年齢児の経験豊富な職員が担当し、保護者からも好評で無事に実施できた。認定こども園移行後も無認可部門を存続したかったが、施設の面積等の規定上出来ず、無認可の部を残すことは不可能となった。
安全管理	2歳児を受け入れるため、遊具などの安全性を再度確認する。	既存の遊具の処分や改善工事を行い、低年齢用の新しい遊具を購入した。
情報交換	保護者へのアンケートを復活し、処理の便宜上、電子メールという形で行う。	現代の通信方法を考慮して、紙面の代わりに電子メールを利用したアンケート形式を試みたが、回答数は非常に少なかった。文章を打つのは面倒くさいからかと思い、最後のアンケートでは形式を変え、HP上での選択式にしてみたが、通知が遅かったこともあり、回答は僅かだった。今後の方法については再度検討すべきところがある。
行事	幼稚園祭が母の会の大きな負担となっているが簡略化し、在園児卒園児の子どもが主体で楽しめる行事として残すこととなった。	幼稚園祭はシンプルな形ではあったが子どもたちには楽しんでもらえた。一方、収益ほとんどなく救済募金もできないほどだった為、尽力して下さった役員・幹事さんも今後の方向性について課題が残ったとの意見があった。 来年度に向けて検討したい。

3、学校関係者評価

貴園は、子どもたちは自分が他者から愛されていることを教え、また、保護者や先生方だけではなく、食べ物やお道具といった、自分の成長を支えてくれている様々なことに感謝する心を育んでくださいます。そして

子どもたちは年齢や各々の発達に合わせて、挑戦すること、力を合わせることを学び、達成感を得ることができます。先生方は子ども達一人一人に寄り添い、温かく導いてくださいます。そのような保育姿勢に大変満足しています。

認定こども園へ移行するにあたり、ハード面、ソフト面、様々な課題があったようですが、あらゆるニーズに応えるべく工夫して取り組まれております。また保護者からの意見を広く聞こうとする姿勢も評価できます。

今後も子どもたちが楽しく幼稚園に通い保護者が安心して預けられる幼稚園運営を期待します。